報　告

昭和63年度共通第１次学力試験の実施結果

昭和63年度共通第１次学力試験は，各国公立大学及び産業医科大学と大学入試センターとの緊密な連携のもとに昭和63年１月23日（土），24日（日）の両日，全国318会場で，396,575人の志願者について一斉に行われた。

本年度の試験は，共通第１次学力試験の教科・科目数の削減と各大学が実施する第２次試験の受験機会の複数化が２年目を迎えた。また，第２次試験の出願は，共通第１次学力試験実施後となった。

今回の試験は，幸い，降雪による交通機関等の混乱もなく，当初の計画どおり実施され，無事終了した。

1　実施方法等の決定・発表

昭和63年度の共通第１次学力試験では，新たに強度の弱視者及び重度の肢体不自由者に対して，試験時間を1.3倍程度延長する措置が追加されたことや，各大学の第２次試験の出願が共通第１次学力試験の後になったなどの改革が行われた。これらを盛り込んだ「昭和63年度大学入学者選抜共通第１次学力試験実施要項」は，昭和62年６月29日付けで通知された。この実施要項に基づいた「受験案内」は，９月１日から全国の国公立大学に配布された。また，各大学の入学試験実施担当者に対しては７・８月及び12月の２回にわたり実施担当者会議を開催し，試験の実施，業務の処理日程及び各種の事故対策等の細部にわたる説明・協議を行い実施に万全を期すとともに，高等学校，教育委員会，PTA等関係者に対しては，７・８月に共通第１次学力試験の説明協議会を全国７地区で開催し，試験の実施に関する諸事項について説明・協議を行いその周知を図った。

2　志願状況等

(1)　志願者数

出願受付は，昭和62年10月26日から11月６日までの間，高等学校卒業見込みの者は在学する高等学校を経由して高等学校を卒業した者等については直接大学入試センターへ郵送することにより行われ，志願者数は396,575人となり，前年度より2,441人増加した。また，

高等学校卒業見込者（現役）の志願率は14.7％と前年度より0.2％低下した。

志願倍率は，志願者が約2,441人増加したものの，前年度と同じ3.7倍となった。

(2) 試験場

試験場は，各大学の施設を当てることを原則としているが収容能力を超える大学については，高等学校等を借用し，全国で318会場に及んだ。

(3) 受験票等の発行

受験票等の志願者への発送は，12月7日から14日までの間に行った。受験票等は，高等学校卒業見込者（通信制課程を除く。）については在学する高等学校等を経由し，本人に送付したが，その後，未着・紛失・破損等による再発行申請が約1,650件あった。

3 共通第1次学力試験の実施

(1) 試験の実施

共通第1次学力試験の本試験は，1月23日，24日に全国318会場で一斉に行われた。また，病気等の理由により本試験を受験できなかった者を対象にする追試験は，1月30日，1月31日に東京医科歯科大学及び神戸商船大学の2会場で行われた。

昭和62年度共通第1次学力試験から，各大学が入学志願者に課する共通第1次学力試験の受験教科の数を各大学に委ねることとなり，大学・学部等によっては，4教科以下を課すことも可能となった。このため，1教科以上の受験者は全て受験者としてみなされ，これら本試験，追試験の全教科及び一部教科を受験した者は，378,548人（うち追試験の受験者は，136人）受験率は95.45％であった。また，全教科欠席者数は，本試験18,018人，追試験9人の18,027人であった。

身体に障害のある志願者241人については，障害の種類・程度に応じ，受験の際，特別の措置がとられた。

(2) 試験問題

共通第1次学力試験では，受験者の高等学校の段階における一般的・基礎的な学習の達成の程度をみて，これを資料として各大学は，大学教育に必要な基礎学力を備えているかどうかを評価することを目的としているが，試験終了後，各方面から寄せられた試験問題についての意見は，大勢としてこれまでの結果を踏まえて工夫された適切な出題内容であるとの評価を得ている。なお，大学入試センターでは，試験終了後高等学校側の意見を聞くなど，分析・研究を今後の問題作成に反映させることとしている。

4 共通第1次学力試験の結果

(1) 答案の採点

共通第1次学力試験の受験者378,548人の答案約189万枚は，各国公立大学で取りまとめられ，大学入試センターへ返送された。大学入試センターでは，これらを1月25日から光学式マーク読取装置で読み取り，電子計算機により採点した。

(2) 実施結果

本年度の実施結果については，本試験を受験した378,412人についての平均点，最高点，最低点を2月17日に報道機関を通じて発表した。また、総得点及び各教科の平均点等については，受験者全員が5教科全部を受験するとは限らなくなった等の理由により，公表しないこととなった。

科目別の平均点をみてみると「全体として平均点が6割を上回る程度とする」というねらいは十分達成できたと考えている。なお，社会と理科の選択科目間の一部に若干の平均点差が生じたが，この要因としては，出題に当たって当該科目の全体の流れ，理解力，思考力や計算能力等を要求したため，受験者集団の学力差がそこに現れたものと考えられる。

試験問題の作成に当たっては，試験問題の作成段階から，過去の実施結果を研究分析するほか，試験問題そのものの工夫・改善に努めているが，今後できる限り差の生じないように調和のとれた問題を作成する努力をしたい。

5 成績の各大学への提供

大学入試センターでは，各国公立大学及び産業医科大学からの成績の請求を受けて，それぞれの大学の入学志願者の総得点，教科・科目別の得点等について，資料の提供を行った。